

お詣り御苦勞さまです。

あなたは、御自身があかし生きた証として何を遺のこそうとお考えですか？

○財産ですか、名誉ですか、家族ですか、事業ですか、思想ですか？

○人は誰でも、自分の一生が意味のないもの、無駄なものであった、とは思いたくありません。

○人は誰でも、自分を評価し認めてもらいたい、という秘かな願望をもっています。

○自分には責任の無いことや、自分自身が仕出かしたことなど、人は様々な条件の下で生きています。

○順風・逆風、いずれの中でも、わたくしたちは精一杯自分自身を演出しようとしています。

○でも、多くの人に認められ称えられるようなものごとを遺すことは、誰にでもできることではありません。

○明治・大正のキリスト教伝道者、内村鑑三（一九三〇・七〇才寂）は、「勇ましい高尚なる生涯」なら、誰でも遺すことができるだろう、と説いています。

敢えて困難にも立ち向かい、少しでも他人様の為に役立ちたい、という志かと思っています。

お大師さま（空海、八三五、六二才寂）は、自分が生かされてきた様々な御恩に報いようとこの世が果てるまで努め続けることが、自分の一番大切な願いである、と言っておられます。

「お納経」の揮毫・朱印は、美術作品や趣味のスタンプ収集ではありません。

お詣り下さったあなた御自身が心をこめて御本尊様に納められたお経を、確かにお取次ぎさせていただきます、との住職の受け取り証印です。

平成廿二年一月

四国第四十五番 海岸山 岩 屋 寺